



▲ 力強いソーラン節の歌声



▲ 会場に響く正調ソーラン節の歌声



▲ 2年ぶりの花火大会



第58回北海ソーラン祭り～伝統文化と夏のにぎわい～

8月9日（日）、余市港特設会場で「第58回北海ソーラン祭り」が開催され、家族連れや観光客でにぎわう中、ソーラン節や花火が夏の夜空を彩りました。

会場では、かつてニシン漁の作業歌として歌われた「正調ソーラン節」の披露や、北海ソーラン太鼓の演奏などが行われ、ソーラン節発祥の地とされる余市に受け継がれる伝統文化に、観客から大きな拍手が送られました。

お祭りのフィナーレを飾ったのは、2年ぶりに

開催された花火大会。約4,000発の色とりどりの花火が余市港の夜空に大輪の花を咲かせ、訪れた人々を魅了しました。

地元の来場者からは、「ソーラン祭りとは花火大会は夏の楽しみ。これからも続いてほしい」といった声が聞かれました。

お祭りの開催に合わせて道の駅では、「ソーランわくわくフェス」が開かれ、ソーラン踊り体験などを通じて、多くの来場者がソーラン節の歴史や文化に親しみました。



▲ 「フルーツ・シャトーよいち」へつぶあんを寄贈

つぶあんで豆の魅力を発信

7月24日（金）、北海道西部穀物商協同組合から、社会福祉施設「フルーツ・シャトーよいち」へ十勝産のつぶあん30キロが贈られました。

同組合は30年以上にわたり、豆のおいしさや魅力を伝える活動を続けています。同施設への寄贈も長年続けられており、提供されたつぶあんは、おしるこなどにして利用者の皆さんへ振る舞われています。

このほか、8月には町内の小学校に32キロのつぶあんが届けられ、給食で提供されるあんぱんの材料として使われる予定です。



▲ 多くの来場者でにぎわう園

新たな観光施設が開業

7月25日（土）、登地区のニトリ観光果樹園に「ニトリ余市恐竜パーク」がオープンしました。施設内には、全長15メートルを超える動く恐竜模型をはじめ、大小30体以上の恐竜が展示されています。

同施設は約2億円をかけて整備されたもので、開業初日から多くの来場者でにぎわいました。新たな観光資源として、町内観光の活性化や交流人口の拡大が期待されています。

展望デッキからは、恐竜とぶどう畑、シリパ岬が織りなす景観を楽しむことができます。